

# 登録有形文化財へ ～キャンパスで見つけた美と歴史～

経済学部 吉田 高文 准教授  
Yoshida Takafumi

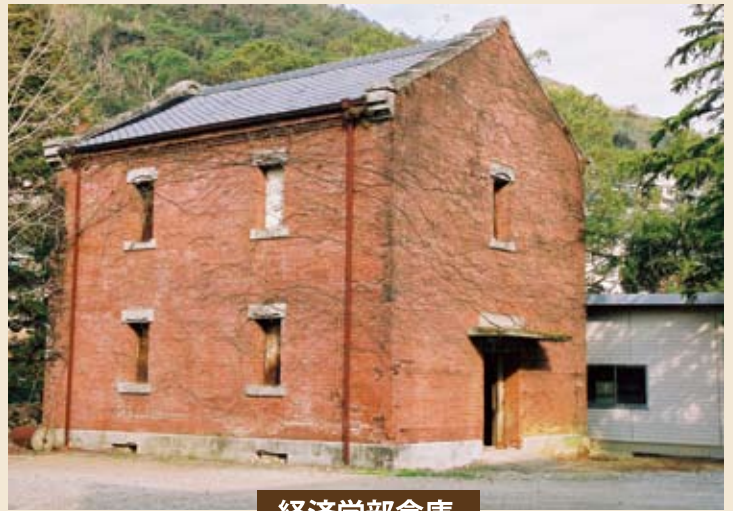
文部科学省が建造物の保存や活用についての措置が特に必要とされる文化財建造物を登録する「文化財登録制度」。この制度は都市の発展や生活様式の変化により、消滅の危機にさらされている文化財建造物を後世に広く継承するための取り組みです。国内にある多種多様な文化財のうち、築後50年以上経過しているものを対象に厳選され、登録されると手厚い保護が行われます。



瓊林会館



拱橋



経済学部倉庫



片淵キャンパス

このたび学内の歴史的建造物3件が国の登録有形文化財に答申されました。片淵キャンパスにある瓊林会館と経済学部倉庫、そしてキャンパス入り口に架かる拱橋です。この答申には岡林隆敏工学部教授による登録有形文化財推薦のための所見が寄せられました。所見では、瓊林会館は明治後期から大正初期の長崎の繁栄を象徴する建造物として、経済学部倉庫は長崎県・長崎市にとつて残り少なくなった近代的な煉瓦造倉庫として価値が高いと述べられています。拱橋は日本の橋梁が鉄筋コンクリート橋に移行する最期を飾るにふさわしい本格的な石造アーチ橋として評価されています。

瓊林会館は明治38年に設置された長崎高等商業学校の研究館として大正8年に造られました。レンガの赤と上げ下げ窓の白で構成する縦のラインのコントラストに特徴があります。現在は経済学部同窓会（瓊林会）事務室や会議

室、資料室などに使用されており、平日の昼間であれば内部の見学も可能です。経済学部倉庫は明治40年に建造された片淵キャンパスで最も古い建物です。開口部や窓の台石に施された曲線を主体とする彫石に単なる倉庫ではない様式美をもっています。ツタの絡まる古風な外観ですが保存状態は良好で、現在も「赤レンガ倉庫」の呼び名で事務関係の倉庫として使われています。普段は中に入つて見学することはできませんが、近づいて眺めたり外壁に触れてみたりすると、歴史を刻んできた重厚な質感が伝わってきます。

拱橋はさらに古く明治36年に架設されました。西山川に架かる他の橋がコンクリート橋であるのに対して、正門を入るとすぐのこの橋は上部空間を開けた石造アーチ橋であり、端正で近代的な景観設計がなされています。春は桜色、秋は銀杏の黄色で敷きつめられ、季節ごとに異なる趣をもつ橋です。